

あんこうてんわう いんぎようてい
安康天皇、允恭帝の第三子なり。
おさかのおほなかつひめくわうこう
母は忍坂大中姫皇后。

いんぎようていほう
四十二年正月、允恭帝崩ず。

しらぎ つかひ つか
新羅、使を遣はして來り弔はしめ、
てうせん そう がくこう
調船八十艘、樂工八十人を獻ず。

みなそふく こくきふ
皆素服して哭泣し、
てう ささ がく は
調を捧げ樂を張り、
つひ ひんきう くわい
遂に殯宮に會す。

つちのとう
十月十日己卯、

いんぎようてんわう ほうむ
允恭天皇を葬る。

たいし いんぎやく
是の時、太子淫虐にして、
ぐんしんふく のぞみ てんわう き
群臣服せず、望を天皇に歸せり。

たいし へい あつめ
太子、兵を集めて、
まさ てんわう おそ
將に天皇を襲はんとす。

すで
既にして、

こと な はか
事の成らざるを度り、

もののべのむらじおほまへ いへ かく
物部連大前の家に匿る。

てんわうこれ かこ
天皇之を圍みしかば、
たいしし じさつ
太子自殺せり。

みづのえうま
十二月十四日壬午、
つひ てんわう くらゐ つ

遂に天皇の位に即く。

これ あなほのすめらみこと
是を穴穗天皇となす。

くわうごう たつと
皇后を尊びて

くわうたいごう い
皇太后と曰ふ。

おほおみかづらきのおみづぶらもと
大臣葛城臣圓故の如し。

みやこ いそのかみ うつ
都を石上に遷し、

これ あなほのみや い
是を穴穗宮と謂ふ。

きのえうま
元年甲午、春二月、

くわうしめくおほくさかのみこ ころ
皇叔大草香皇子を殺し、

なかしひめ い ひ
中蒂姫を納れて妃となす。

きのとひつじ
二年乙未、

つちのととり
春正月十七日己酉、

ひなかしひめた
妃中蒂姫を立て、

くわうごう
皇后となす。

三年丙申、
ひのえさる

秋八月、眉輪王、
まゆわのみこ

天皇に怨あり、
てんわう うらみ

九日壬辰、天皇、
みづのえたつ てんわう

山宮に行幸し、暴に崩ず。
やまのみや ぎやうかう にはか ほう

後三年、菅原伏見陵に葬る。
のち すがはらのふしみのみささぎ はうむ

追諡して安康天皇と曰ふ。
つるし あんかうてんわう い